

経営比較分析表（令和6年度決算）

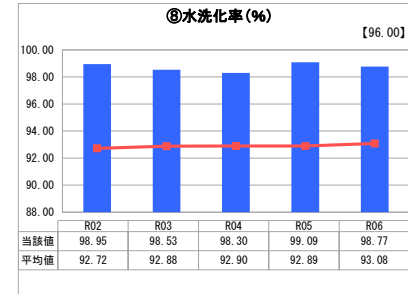
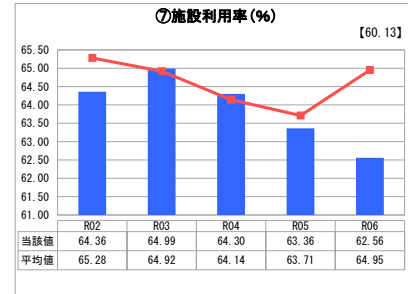
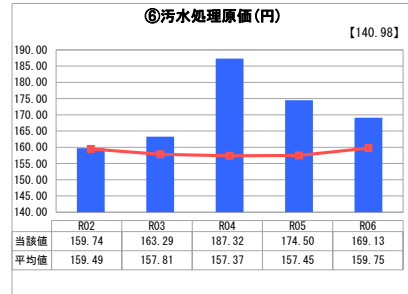
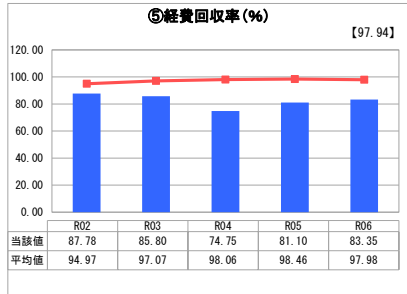
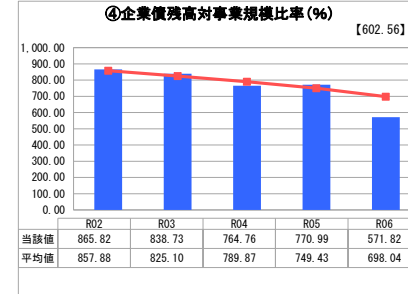
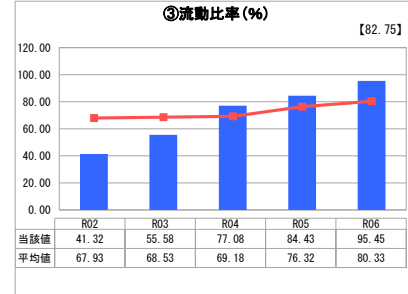
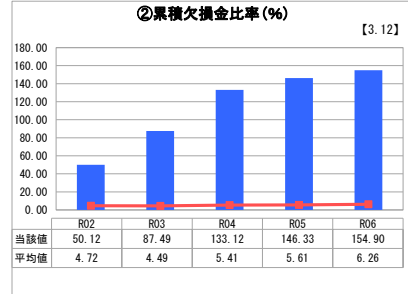
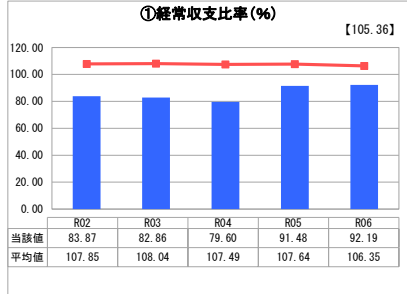
兵庫県 赤穂市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	63.47	75.72	81.41	2,453

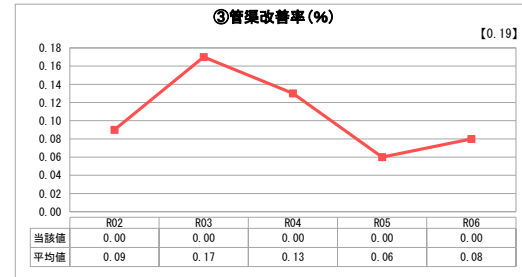
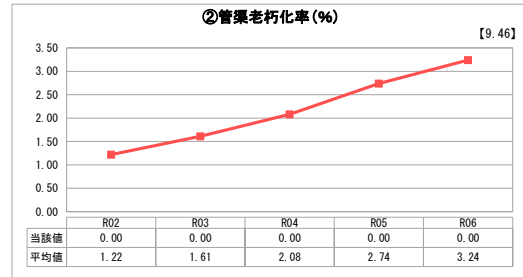
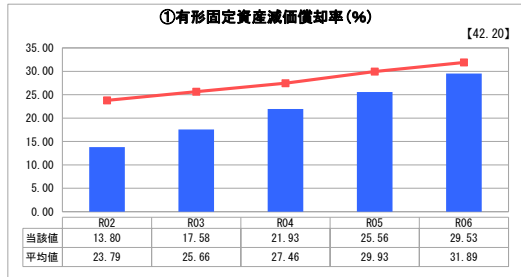
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
44,179	126.85	348.28
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
33,221	9.91	3,352.27

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
[] 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

公共下水道事業の①経常収支比率、⑤経費回収率はわずかに改善したものの、依然として100%を下回っており、類似団体平均値も下回っている。恒常的な赤字状態にあるため、②累積欠損金比率も年々悪化しており、健全な経営とは言えない状況である。

令和7年9月より使用料水準の改定を行い、収支の改善に努めていくこととしているが、今後も人口減少に伴う有収水量の減少や、物価高騰、施設等の経年劣化による維持管理費の増加傾向が見込まれるため、引き続き経営の合理化・効率化を図っていく。

2. 老朽化の状況について

本市の公共下水道事業は昭和56年9月に供用開始しており、令和6年9月に供用開始43年を迎えた。近年は、経年劣化した施設の改築更新が課題となっており、令和6年度に策定したストックマネジメント計画に基づき、緊急度の高い処理場・ポンプ場施設の改築更新を計画的に進めているところである。

なお、管渠については、今後実施していく予定である。

全体総括

有収水量は、特定環境保全公共下水道事業及び農業集落排水事業と同様に減少傾向が続くものと予想される一方で、経年劣化が進む下水道施設の改築更新にかかる費用の増加は不可避である。

令和7年9月以降に使用料改定を行い、経営の安定化を図るが、収支の状況を的確に把握し、引き続き適切な料金水準や投資計画について検討を続けたい。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。